

診療報酬調査専門組織 (DPC評価分科会) 座席表

(日時) 平成22年6月30日 (水) 14:00~16:00

(会場) 九段会館 鳳凰の間 (2階)

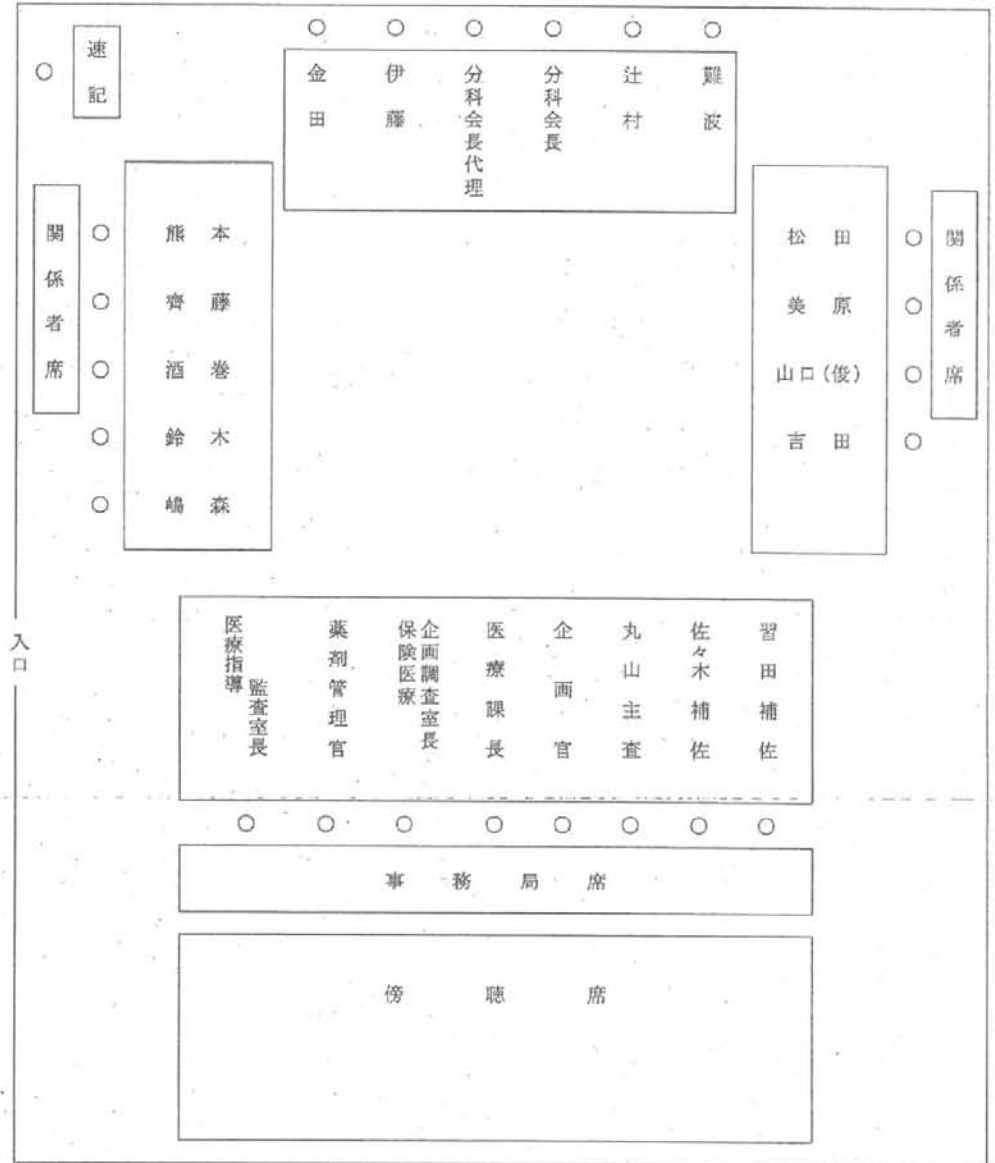
平成22年度 第3回 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会

日時: 平成22年6月30日 (水) 14:00~16:00

場所: 九段会館 鳳凰の間 (2階)

議事次第

- 1 平成21年度「DPC導入の影響評価に関する調査結果及び評価」最終報告概要 (案)
- 2 平成21年度 再入院 (再転棟) にかかる調査について
- 3 DPC対象病院・準備病院の現状について
- 4 機能評価係数について



診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会委員一覧

診調組 D-1
22.06.30

<委員>

氏名	所属等
相川 直樹	財団法人国際医学情報センター理事長
池上 直己	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教授
伊藤 澄信	独立行政法人 国立病院機構 総合研究センター 臨床研究統括部長
金田 道弘	社会医療法人緑社会理事長兼金田病院長
三上 裕司	日本医師会常任理事・特定医療法人三上会 総合病院東香里病院理事長
熊本 一朗	鹿児島大学医療情報管理学教授
○ 小山 信彌	東邦大学医療センター大森病院心臓血管外科部長
齊藤 壽一	社会保険中央総合病院名誉院長
酒巻 哲夫	群馬大学医療情報部教授
鈴木 洋史	日本病院薬剤師会常務理事・東京大学医学部附属病院薬剤部教授
嶋森 好子	社団法人東京都看護協会会長
辻村 信正	国立保健医療科学院次長
難波 貞夫	富士重工業健康保険組合総合太田病院病院長
◎ 西岡 清	横浜市立みなと赤十字病院名誉院長
松田 晋哉	産業医科大学医学部公衆衛生学教授
美原 盤	財団法人脳血管研究所附属美原記念病院院長
山口 俊晴	癌研究会有明病院消化器外科部長
山口 直人	東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学第二講座主任教授
吉田 英機	昭和大学医学部名誉教授

◎ 分科会長 ○ 分科会長代理

平成21年度「DPC導入の影響評価に関する調査結果および評価」

最終報告概要（案）

平成22年6月30日

診療報酬調査専門組織DPC評価分科会

分科会長 西岡 清

第1 調査の目的

DPC導入の影響評価を行うために、診断群分類の妥当性の検証及び診療内容の変化等を評価するための基礎資料を収集することを目的とする。

第2 調査方法

平成21年7月から12月までの退院患者について、「診療録情報（診療録に基づく情報）」及び「レセプト情報（診療報酬請求明細書に基づく情報）」等を収集する。

第3 調査対象病院

- 平成15年度DPC参加病院 82病院
- 平成16年度DPC参加病院 62病院
- 平成18年度DPC参加病院 215病院
- 平成20年度DPC参加病院 356病院
- 平成21年度DPC参加病院 567病院
- 平成18、19年度新規DPC準備病院 129病院
- 平成20年度新規DPC準備病院 132病院
- 平成21年度新規DPC準備病院 64病院

※用語の定義（今回より以下の様に整理する。）

- 平成●●年度対象病院：当該年度において、診断群分類点数表により算定している病院
- 平成●●年度参加病院：当該年度において、初めて対象病院となった病院（印刷製本の都合上、今回の参考資料1から3は全て「新規対象病院」として表示）
- 平成●●年度準備病院：当該年度において、対象病院ではなく、DPC調査に参加している病院（「新規」と接頭辞がついた場合は、当該年度に初参加となった病院）

第4 分析対象データについて

厚生労働省が受領した7月から12月の退院患者に係るデータ（約487万件）のうち、包括払いの対象とならない病棟への移動があった者等を除外したデータ（約438万件）を分析の対象とした。また、平成17年度～20年度の調査データについても同時期のデータを用いて比較対象とした。

第5 主な結果

1 平均在院日数

(1) 平均在院日数の年次推移（表1 参考資料1 p.23～p.46）

全ての病院類型において、平均在院日数は減少傾向にあった。

【表1】在院日数の平均の年次推移

病院類型	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成15年度 DPC参加病院	17.73	17.08	16.51	16.03
平成16年度 DPC参加病院	14.93	14.78	14.59	14.44
平成18年度 DPC参加病院	14.71	14.66	14.40	14.23
平成20年度 DPC参加病院	15.54	15.19	14.40	14.36
平成21年度 DPC参加病院	・	15.53	15.19	14.50
平成18,19年度 新規DPC準備病院	・	16.55	16.10	15.96
平成20年度 新規DPC準備病院	・	・	15.84	15.51
平成21年度 新規DPC準備病院	・	・	・	15.29

(2) 平均在院日数の減少の要因（参考資料1 p.47～p.68）

平均在院日数の減少の要因を「診断群分類毎の在院日数の変化による影響」と「患者構成の変化による影響」とに分けて分析すると、主に診断群分類毎の在院日数の減少によるものと考えられた。

2 入院経路

(1) 救急車による搬送の率・患者数の年次推移（表2 参考資料1 p.69）

救急車による搬送の率は、全病院類型において明らかな増加傾向又は減少傾向は見られない。

1施設1ヶ月あたりの救急搬送患者数は全病院類型において平成20年度と比較して増加傾向であった。

【表2】救急車による搬送の率・患者数

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成16年度DPC参加 病院（割合）	7.5%	7.4%	7.3%	6.7%	7.1%
（1施設当たり患者数）	74.3	78.4	79.3	75.1	81.5
平成16年度DPC参加 病院（割合）	12.2%	12.3%	12.7%	12.1%	12.6%
（1施設当たり患者数）	67.0	69.4	71.0	68.7	72.5
平成18年度DPC参加 病院（割合）	13.3%	13.7%	14.0%	13.6%	13.8%
（1施設当たり患者数）	78.7	85.7	88.8	87.8	91.2
平成20年度DPC参加 病院（割合）	・	13.3%	13.0%	12.6%	13.1%
（1施設当たり患者数）	・	59.3	58.6	58.7	61.7
平成21年度DPC参加 病院（割合）	・	・	13.1%	12.7%	13.1%
（1施設当たり患者数）	・	・	45.4	45.5	47.9
平成18,19年度新規DPC 準備病院（割合）	・	・	13.5%	13.3%	13.6%
（1施設当たり患者数）	・	・	23.8	24.4	25.3
平成20年度新規DPC 準備病院（割合）	・	・	・	13.3%	13.3%
（1施設当たり患者数）	・	・	・	32.0	32.6
平成21年度新規DPC 準備病院（割合）	・	・	・	・	12.4%
（1施設当たり患者数）	・	・	・	・	35.0

(2) 緊急入院の率・患者数の年次推移 (表3 参考資料1 p.70)

緊急入院の率は、平成18、19年度新規DPC準備病院は減少傾向であるが、それ以外の病院類型では横ばい傾向であった。

1施設1ヶ月あたりの緊急入院の患者数は、平成15年度、平成18年度、平成20年度及び平成21年度新規DPC準備病院は増加傾向であるが、それ以外の病院類型では明らかな増加傾向又は減少傾向は見られない。

【表3】緊急入院の率・患者数

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成15年度 DPC参加病院(割合)	25.8%	25.1%	25.2%	25.0%	24.8%
(1施設当たり患者数)	253.7	266.2	274.3	278.5	283.4
平成16年度 DPC参加病院(割合)	46.0%	47.5%	47.0%	45.7%	46.0%
(1施設当たり患者数)	252.9	267.9	263.8	260.9	267.2
平成18年度 DPC参加病院(割合)	45.8%	46.3%	46.5%	46.4%	46.0%
(1施設当たり患者数)	269.9	290.3	294.3	299.6	304.1
平成20年度 DPC参加病院(割合)	・	46.5%	48.2%	48.5%	47.9%
(1施設当たり患者数)	・	217.6	217.4	225.7	226.2
平成21年度 DPC参加病院(割合)	・	・	48.9%	49.0%	49.1%
(1施設当たり患者数)	・	・	169.9	176.0	180.3
平成18、19年度新規DPC 準備病院(割合)	・	・	51.3%	51.2%	49.2%
(1施設当たり患者数)	・	・	90.7	93.9	91.5
平成20年度新規DPC 準備病院(割合)	・	・	・	51.4%	51.5%
(1施設当たり患者数)	・	・	・	124.1	126.9
平成21年度新規DPC 準備病院(割合)	・	・	・	・	44.5%
(1施設当たり患者数)	・	・	・	・	125.7

(3) 他院より紹介有りの率・患者数の年次推移 (表4 参考資料1 p.71)

他院より紹介有りの率及び1施設当たりの患者数は、全病院類型において増加傾向であった。

【表4】他院より紹介有りの率・患者数

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成15年度 DPC参加病院(割合)	41.4%	42.6%	43.7%	42.8%	43.6%
(1施設当たり患者数)	407.8	452.1	474.8	477.3	497.7
平成16年度 DPC参加病院(割合)	36.2%	36.2%	38.1%	40.8%	42.8%
(1施設当たり患者数)	199.3	204.4	213.9	232.2	247.3
平成18年度 DPC参加病院(割合)	37.4%	34.7%	35.2%	37.2%	38.8%
(1施設当たり患者数)	220.4	217.7	223.0	239.9	256.2
平成20年度 DPC参加病院(割合)	・	35.5%	37.2%	37.7%	39.6%
(1施設当たり患者数)	・	158.9	167.6	175.3	186.7
平成21年度 DPC参加病院(割合)	・	・	37.3%	39.9%	40.5%
(1施設当たり患者数)	・	・	129.5	143.1	148.3
平成18、19年度新規DPC 準備病院(割合)	・	・	34.7%	34.2%	36.3%
(1施設当たり患者数)	・	・	61.3	62.8	67.4
平成20年度新規DPC 準備病院(割合)	・	・	・	35.9%	38.4%
(1施設当たり患者数)	・	・	・	86.5	94.5
平成20年度新規DPC 準備病院(割合)	・	・	・	・	38.2%
(1施設当たり患者数)	・	・	・	・	107.9

3 退院先の状況（表5、6 参考資料1 p.72）

(1) 自院の外来の割合の年次推移

自院の外来の割合は、平成16年度及び平成18年度DPC参加病院は減少傾向であり、それ以外の病院類型では明らかな増加傾向又は減少傾向は見られない。

【表5】退院先の状況「自院の外来」

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成15年度 DPC参加病院	83.55%	84.20%	84.68%	84.29%	83.86%
平成16年度 DPC参加病院	74.10%	72.19%	71.71%	69.50%	68.31%
平成18年度 DPC参加病院	75.04%	75.53%	75.18%	73.42%	72.89%
平成20年度 DPC参加病院	・	74.32%	74.90%	75.47%	75.07%
平成21年度 DPC参加病院	・	・	75.60%	74.95%	75.59%
平成18,19年度 新規DPC準備病院	・	・	70.77%	71.38%	71.46%
平成20年度 新規DPC準備病院	・	・	・	72.61%	72.75%
平成21年度 新規DPC準備病院	・	・	・	・	75.77%

(2) 転院の割合の年次推移

転院の割合については、平成16年度及び平成18年度DPC参加病院は平成19年度以降増加傾向があるが、それ以外の病院類型では明らかな増加傾向又は減少傾向は見られない。

【表6】退院先の状況「転院」

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成15年度 DPC参加病院	4.39%	4.25%	4.38%	4.19%	4.38%
平成16年度 DPC参加病院	4.91%	5.31%	5.27%	5.78%	5.73%
平成18年度 DPC参加病院	5.30%	5.38%	5.41%	5.68%	5.77%
平成20年度 DPC参加病院	・	4.92%	4.99%	4.95%	5.05%
平成21年度 DPC参加病院	・	・	4.96%	5.00%	4.92%
平成18,19年度 新規DPC準備病院	・	・	5.25%	5.46%	5.37%
平成20年度 新規DPC準備病院	・	・	・	5.92%	6.01%
平成21年度 新規DPC準備病院	・	・	・	・	4.57%

4 退院時転帰の状況（表7 参考資料1 p.73）

（1）治癒・軽快の割合

平成20年度と比較して、治癒及び軽快を合計した割合は全ての病院類型において大きな変動は見受けられなかった。また、治癒の割合は全ての病院類型において減少傾向にあった。

【表7】退院時転帰の状況「治癒・軽快」

病院類型		平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成15年度 DPC参加病院（割合）	治癒	6.56%	5.10%	5.05%	4.45%	3.38%
	軽快	72.45%	74.10%	74.17%	74.19%	74.19%
	治癒+軽快	79.01%	79.20%	79.22%	78.63%	77.57%
平成16年度 DPC参加病院（割合）	治癒	5.47%	4.27%	3.64%	9.77%	7.83%
	軽快	76.14%	77.88%	78.92%	72.22%	73.84%
	治癒+軽快	81.61%	82.15%	82.55%	81.99%	81.66%
平成18年度 DPC参加病院（割合）	治癒	8.86%	6.91%	4.81%	7.64%	6.83%
	軽快	71.73%	74.70%	77.26%	74.18%	74.77%
	治癒+軽快	80.59%	81.61%	82.07%	81.82%	81.60%
平成20年度 DPC参加病院（割合）	治癒	・	8.75%	7.04%	7.20%	5.83%
	軽快	・	71.50%	73.29%	73.95%	74.92%
	治癒+軽快	・	80.25%	80.33%	81.14%	80.75%
平成21年度 DPC参加病院（割合）	治癒	・	・	7.31%	7.43%	5.09%
	軽快	・	・	72.92%	72.73%	75.01%
	治癒+軽快	・	・	80.23%	80.16%	80.10%
平成18,19年度DPC 新規準備病院（割合）	治癒	・	・	8.71%	6.31%	3.71%
	軽快	・	・	69.50%	71.57%	73.24%
	治癒+軽快	・	・	78.21%	77.88%	76.95%
平成20年度DPC 新規準備病院（割合）	治癒	・	・	・	9.08%	5.90%
	軽快	・	・	・	70.63%	73.25%
	治癒+軽快	・	・	・	79.71%	79.15%
平成21年度DPC 新規準備病院（割合）	治癒	・	・	・	・	5.32%
	軽快	・	・	・	・	71.51%
	治癒+軽快	・	・	・	・	76.83%

5 再入院率（表8、9 参考資料1 p.74~p.97）

（1）再入院の割合の年次推移

再入院の割合は、全ての病院類型で増加傾向であった。

【表8】再入院率「再入院の割合」

病院類型	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成15年度 DPC参加病院（割合）	17.79%	18.10%	18.74%	19.01%
平成16年度 DPC参加病院（割合）	16.59%	16.86%	17.27%	17.38%
平成18年度 DPC参加病院（割合）	16.18%	16.35%	16.76%	16.98%
平成20年度 DPC参加病院（割合）	15.59%	16.24%	16.99%	17.12%
平成21年度 DPC参加病院（割合）	・	15.87%	16.43%	16.96%
平成18,19年度新規 DPC準備病院（割合）	・	15.77%	16.43%	16.98%
平成20年度新規 DPC準備病院（割合）	・	・	15.54%	15.91%
平成21年度新規 DPC準備病院（割合）	・	・	・	16.84%

(2) 同一疾患での6週間以内の再入院の割合の年次推移

同一疾患での6週間以内の再入院の割合は、全ての病院類型で増加傾向であった。

【表9】再入院率「同一疾患での6週間以内の再入院」

病院類型	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
平成15年度 DPC参加病院(割合)	8.22%	8.41%	8.92%	9.00%
平成16年度 DPC参加病院(割合)	7.02%	7.24%	7.61%	7.79%
平成18年度 DPC参加病院(割合)	6.63%	6.89%	7.15%	7.31%
平成20年度 DPC参加病院(割合)	6.25%	6.85%	7.19%	7.43%
平成21年度 DPC参加病院(割合)		6.76%	7.24%	7.44%
平成18、19年度新規 DPC準備病院(割合)		6.97%	7.63%	7.73%
平成20年度新規 DPC準備病院(割合)			6.41%	6.88%
平成21年度新規 DPC準備病院(割合)				7.47%

6 患者構成(表10 参考資料1 p.98)

MDC別の患者の構成割合は、全ての病院類型でMDC06「消化器疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患」が最も高い割合を占めており、近年の患者構成の割合には大きな変化は見られなかった。

【表10】患者構成(DPC対象病院)

MDC	平成15年度 DPC参加病院		平成16年度 DPC参加病院		平成18年度 DPC参加病院		平成20年度 DPC参加病院		平成21年度 DPC参加病院	
	平成20年	平成21年	平成20年	平成21年	平成20年	平成21年	平成20年	平成21年	平成20年	平成21年
01	6.06%	6.01%	6.43%	6.27%	6.69%	6.56%	6.37%	6.35%	6.55%	6.66%
02	8.66%	8.72%	3.99%	3.92%	3.99%	3.89%	4.41%	4.40%	3.85%	4.02%
03	5.02%	5.09%	4.00%	3.89%	4.06%	3.90%	4.14%	4.09%	3.87%	3.54%
04	7.90%	7.90%	11.32%	11.96%	11.73%	11.98%	12.39%	12.48%	12.29%	12.48%
05	9.05%	9.40%	10.31%	10.31%	11.27%	11.34%	10.02%	10.02%	9.79%	10.06%
06	19.49%	19.36%	23.04%	23.08%	23.00%	23.07%	23.08%	23.30%	24.25%	24.44%
07	8.29%	8.08%	5.35%	5.53%	5.22%	5.25%	5.31%	5.34%	5.19%	5.22%
08	1.29%	1.28%	1.14%	1.12%	1.07%	1.07%	1.20%	1.15%	1.18%	1.11%
09	1.63%	1.62%	1.39%	1.33%	1.26%	1.31%	1.21%	1.23%	1.21%	1.21%
10	3.80%	3.69%	2.93%	2.96%	2.95%	2.95%	3.00%	3.00%	3.08%	2.94%
11	7.35%	7.40%	8.47%	8.40%	7.98%	8.01%	8.15%	8.21%	7.64%	7.62%
12	8.97%	9.06%	7.51%	7.00%	6.89%	6.80%	6.14%	6.20%	6.31%	6.16%
13	3.00%	3.02%	2.58%	2.54%	2.36%	2.42%	2.22%	2.25%	1.84%	2.08%
14	3.70%	3.66%	2.19%	2.12%	1.91%	1.92%	1.98%	1.93%	2.04%	2.00%
15	0.61%	0.54%	1.52%	1.39%	1.58%	1.32%	1.75%	1.41%	2.03%	1.51%
16	3.28%	3.32%	6.10%	6.32%	6.25%	6.33%	6.67%	6.66%	7.04%	7.02%
17	0.17%	0.16%	0.19%	0.20%	0.22%	0.20%	0.28%	0.26%	0.32%	0.27%
18	1.73%	1.71%	1.55%	1.66%	1.57%	1.60%	1.68%	1.71%	1.51%	1.65%

【表10】患者構成（DPC準備病院）

MDC	平成18,19年度 新規DPC準備 病院		平成20年度 新規DPC準備 病院		平成21年度 新規DPC準備 病院	
	平成20年	平成21年	平成20年	平成21年	平成20年	平成21年
01	7.53%	7.37%	7.38%	7.24%	*	5.50%
02	3.50%	3.45%	3.81%	3.98%	*	4.05%
03	3.75%	3.58%	3.70%	3.52%	*	4.24%
04	12.00%	11.53%	12.28%	12.30%	*	13.97%
05	10.78%	11.10%	10.47%	10.70%	*	9.19%
06	23.85%	25.00%	24.35%	24.52%	*	24.62%
07	6.10%	6.00%	5.87%	5.90%	*	4.93%
08	1.07%	1.02%	1.11%	1.05%	*	1.74%
09	1.98%	2.06%	1.00%	1.06%	*	2.00%
10	3.51%	3.42%	2.99%	2.88%	*	2.79%
11	7.54%	7.40%	6.56%	6.46%	*	7.58%
12	4.40%	4.33%	5.67%	5.76%	*	5.73%
13	1.23%	1.44%	1.57%	1.66%	*	1.64%
14	0.85%	0.81%	2.00%	1.90%	*	1.98%
15	1.90%	1.56%	2.13%	1.77%	*	1.77%
16	8.27%	8.24%	7.49%	7.54%	*	6.49%
17	0.40%	0.37%	0.43%	0.40%	*	0.29%
18	1.34%	1.33%	1.22%	1.34%	*	1.49%

参考

MDC01	神経系疾患	MDC10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患
MDC02	眼科系疾患	MDC11	腎・尿路系疾患及び男性生殖系疾患
MDC03	耳鼻咽喉科系疾患	MDC12	女性生殖系疾患及び産婦科疾患・異常妊娠分娩
MDC04	呼吸器系疾患	MDC13	血液・造血器・免疫臓器の疾患
MDC05	循環器系疾患	MDC14	新生児疾患,先天性奇形
MDC06	消化器系疾患,肝臓・胆道・膵臓疾患	MDC15	小児疾患
MDC07	筋骨格系疾患	MDC16	外傷・熱傷・中毒
MDC08	皮膚・皮下組織の疾患	MDC17	精神疾患
MDC09	乳房の疾患	MDC18	その他

平成20年度「DPC導入の影響評価に関する調査結果および評価」

最終報告概要

平成21年5月14日

診療報酬調査専門組織DPC評価分科会

分科会長 西岡 清

第1 調査の目的

DPC導入の影響評価を行うために、診断群分類の妥当性の検証及び診療内容の変化等を評価するための基礎資料を収集することを目的とする。

第2 調査方法

平成20年7月から12月までの退院患者について、「診療録情報（診療録に基づく情報）」及び「レセプト情報（診療報酬請求明細書に基づく情報）」等を収集する。

第3 調査対象病院

- 平成15年度DPC対象病院 82病院
- 平成16年度DPC対象病院 62病院
- 平成18年度DPC対象病院 216病院
- 平成20年度DPC対象病院 358病院
- 平成18,19年度DPC準備病院 704病院
- 平成20年度DPC準備病院 137病院

第4 分析対象データについて

厚生労働省が受領した7月から12月の退院患者に係るデータ（約460万件）のうち、包括払いの対象とならない病棟への移動があった者等を除外したデータ（約423万件）を分析の対象とした。また、平成16年度～19年度の調査データについても同時期のデータを用いて比較対象とした。

第5 主な結果

1 平均在院日数

(1) 平均在院日数の年次推移 (表1 参考資料1 p.22~p.42)

全ての病院類型において、平均在院日数は減少傾向にあった。

【表1】在院日数の平均の年次推移

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度 DPC対象病院	18.31	17.38	16.78	16.15
平成16年度 DPC対象病院	15.15	14.75	14.60	14.32
平成18年度 DPC対象病院	15.48	14.52	14.50	14.19
平成20年度 DPC対象病院	.	15.35	14.98	14.18
平成18,19年度 DPC準備病院	.	.	15.42	15.03
平成20年度 DPC準備病院	.	.	.	15.58

(2) 平均在院日数の減少の要因 (参考資料1 p.43~p.62)

平均在院日数の減少の要因を「診断群分類毎の在院日数の変化による影響」と「患者構成の変化による影響」とに分けて分析すると、主に診断群分類毎の在院日数の減少によるものと考えられた。

2 入院経路

(1) 救急車による搬送の率・患者数の年次推移 (表2 参考資料1 p.63)

救急車による搬送の率は、平成15年度DPC対象病院においては、やや減少傾向であるが、その他の病院類型において概ね横ばいであった。

【表2】救急車による搬送の率・患者数

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院 (割合)	8.3%	7.5%	7.4%	7.3%	6.7%
(1施設当たり患者数)	78.8	74.3	78.4	79.3	75.1
平成16年度DPC 対象病院 (割合)	12.7%	12.2%	12.3%	12.7%	12.1%
(1施設当たり患者数)	70.5	67.0	69.4	71.0	68.7
平成18年度DPC 対象病院 (割合)	.	13.3%	13.7%	14.0%	13.6%
(1施設当たり患者数)	.	78.4	85.4	88.5	87.6
平成20年度DPC 対象病院 (割合)	.	.	13.3%	13.0%	12.6%
(1施設当たり患者数)	.	.	59.1	58.3	58.4
平成18,19年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	13.1%	12.7%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	41.1	41.3
平成20年度DPC 準備病院 (割合)	13.5%
(1施設当たり患者数)	32.1

(2) 緊急入院の率・患者数の年次推移 (表3 参考資料1 p.64)

緊急入院の率は、平成16年度DPC対象病院は減少傾向であるが、それ以外の病院類型では増加から横ばい傾向であった。

1施設1ヶ月あたりの緊急入院の患者数は、平成16年度DPC対象病院は減少傾向であるが、それ以外の病院類型では増加傾向であった。

【表3】緊急入院の率・患者数

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院 (割合)	27.3%	25.8%	25.1%	25.2%	25.0%
(1施設当たり患者数)	259.8	253.7	266.2	274.3	278.5
平成16年度DPC 対象病院 (割合)	46.2%	46.0%	47.5%	47.0%	45.7%
(1施設当たり患者数)	256.2	252.9	267.9	263.8	260.9
平成18年度DPC 対象病院 (割合)	.	45.8%	46.3%	46.4%	46.4%
(1施設当たり患者数)	.	268.9	289.1	293.1	298.4
平成20年度DPC 対象病院 (割合)	.	.	48.6%	48.3%	48.5%
(1施設当たり患者数)	.	.	217.0	216.7	224.8
平成18,19年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	49.2%	49.3%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	154.3	159.7
平成20年度DPC 準備病院 (割合)	51.7%
(1施設当たり患者数)	123.3

(3) 他院より紹介有りの率・患者数の年次推移 (表4 参考資料1 p.65)

他院より紹介有りの率及び1施設当たりの患者数は、平成15年度DPC対象病院を除いた病院類型では増加傾向であった。

【表4】他院より紹介有りの率・患者数

病院類型	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院 (割合)	41.2%	41.4%	42.6%	43.7%	42.8%
(1施設当たり患者数)	392.6	407.8	452.1	474.8	477.3
平成16年度DPC 対象病院 (割合)	32.4%	36.2%	36.2%	38.1%	40.8%
(1施設当たり患者数)	179.7	199.3	204.4	213.9	232.2
平成18年度DPC 対象病院 (割合)	.	37.4%	34.7%	35.2%	37.2%
(1施設当たり患者数)	.	219.9	217.0	222.1	239.3
平成20年度DPC 対象病院 (割合)	.	.	35.5%	37.2%	37.8%
(1施設当たり患者数)	.	.	158.4	167.1	174.7
平成18,19年度DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	37.0%	39.3%
(1施設当たり患者数)	.	.	.	115.9	127.2
平成20年度DPC 準備病院 (割合)	35.7%
(1施設当たり患者数)	85.0

3 退院先の状況 (表 5、6 参考資料 1 p.66)

(1) 自院の外来の割合の年次推移

自院の外来の割合は、平成16年度DPC対象病院、平成18年度DPC対象病院は減少傾向であり、それ以外の病院類型では横ばい傾向であった。

【表 5】退院先の状況「自院の外来」

病院類型	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年
平成 15 年度 DPC 対象病院 (割合)	82.59%	83.55%	84.20%	84.68%	84.29%
平成 16 年度 DPC 対象病院 (割合)	74.59%	74.10%	72.19%	71.71%	69.50%
平成 18 年度 DPC 対象病院 (割合)	.	74.97%	75.47%	75.11%	73.34%
平成 20 年度 DPC 対象病院 (割合)	.	.	74.32%	74.90%	75.47%
平成 18, 19 年度 DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	75.09%	74.58%
平成 20 年度 DPC 準備病院 (割合)	72.51%

(2) 転院の割合の年次推移

転院の割合については、平成15年度DPC対象病院は減少傾向であるが、平成16年度DPC対象病院、平成18年度DPC対象病院は増加傾向であり、それ以外の病院類型では横ばい傾向であった。

【表 6】退院先の状況「転院」

病院類型	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年
平成 15 年度 DPC 対象病院 (割合)	4.73%	4.39%	4.25%	4.38%	4.19%
平成 16 年度 DPC 対象病院 (割合)	4.74%	4.91%	5.31%	5.27%	5.78%
平成 18 年度 DPC 対象病院 (割合)	.	5.31%	5.39%	5.41%	5.69%
平成 20 年度 DPC 対象病院 (割合)	.	.	4.92%	4.99%	4.95%
平成 18, 19 年度 DPC 準備病院 (割合)	.	.	.	4.99%	5.05%
平成 20 年度 DPC 準備病院 (割合)	5.94%

4 退院時転帰の状況（表7 参考資料1 p.67）

(1) 治癒・軽快の割合

治癒及び軽快を合計した割合は全ての病院類型においてほぼ横ばい傾向であった。なお、治癒の割合は平成16年度DPC対象病院、平成18年度DPC対象病院においては増加傾向にあった。

【表7】退院時転帰の状況「治癒・軽快」

病院類型		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	治癒	6.52%	6.56%	5.10%	5.05%	4.45%
	軽快	73.08%	72.45%	74.10%	74.17%	74.19%
	治癒+軽快	79.60%	79.01%	79.20%	79.22%	78.63%
平成16年度DPC 対象病院（割合）	治癒	8.03%	5.47%	4.27%	3.64%	9.77%
	軽快	73.70%	76.14%	77.88%	78.92%	72.22%
	治癒+軽快	81.73%	81.61%	82.15%	82.55%	81.99%
平成18年度DPC 対象病院（割合）	治癒	・	8.85%	6.91%	4.81%	7.65%
	軽快	・	71.72%	74.69%	77.23%	74.14%
	治癒+軽快	・	80.57%	81.60%	82.04%	81.79%
平成20年度DPC 対象病院（割合）	治癒	・	・	8.76%	7.04%	7.21%
	軽快	・	・	71.49%	73.28%	73.94%
	治癒+軽快	・	・	80.24%	80.33%	81.14%
平成18,19年度DPC 準備病院（割合）	治癒	・	・	・	7.47%	7.31%
	軽快	・	・	・	72.54%	72.60%
	治癒+軽快	・	・	・	80.01%	79.91%
平成20年度DPC 準備病院（割合）	治癒	・	・	・	・	8.93%
	軽快	・	・	・	・	70.92%
	治癒+軽快	・	・	・	・	79.85%

5 再入院率（表8、9 参考資料1 p.68~p.88）

(1) 再入院の割合の年次推移

再入院の割合は、全ての病院類型で増加傾向であった。

【表8】再入院率「再入院の割合」

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	13.03%	13.60%	13.89%	14.50%
平成16年度DPC 対象病院（割合）	12.38%	12.88%	13.13%	13.55%
平成18年度DPC 対象病院（割合）	11.98%	12.50%	12.68%	13.14%
平成20年度DPC 対象病院（割合）	・	12.02%	12.56%	13.37%
平成18,19年度DPC 準備病院（割合）	・	・	12.32%	12.95%
平成20年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	12.14%

(2) 同一疾患での6週間以内の再入院の割合の年次推移

同一疾患での6週間以内の再入院の割合は、全ての病院類型で増加傾向であった。

【表9】再入院率「同一疾患での6週間以内の再入院」

病院類型	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
平成15年度DPC 対象病院（割合）	6.83%	7.24%	7.43%	7.93%
平成16年度DPC 対象病院（割合）	5.92%	6.30%	6.54%	6.92%
平成18年度DPC 対象病院（割合）	5.68%	5.88%	6.12%	6.43%
平成20年度DPC 対象病院（割合）	・	5.57%	6.11%	6.48%
平成18,19年度DPC 準備病院（割合）	・	・	6.06%	6.60%
平成20年度DPC 準備病院（割合）	・	・	・	5.76%

6 患者構成（表10 参考資料1 p.89）

MDC別の患者の構成割合は、全ての病院類型でMDC06「消化器疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患」が最も高い割合を占めており、近年の患者構成の割合には大きな変化は見られなかった。

【表10】患者構成

MDC	平成15年度 DPC対象病院		平成16年度 DPC対象病院		平成18年度 DPC対象病院		平成20年度 DPC対象病院		平成18,19年度 DPC準備病院		平成20年度 DPC準備病院	
	平成19年	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年	平成19年	平成20年	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年	平成20年
01	8.46%	6.06%	6.30%	6.43%	6.81%	6.68%	6.30%	6.36%	6.75%	6.65%	・	7.40%
02	8.46%	8.66%	4.07%	3.99%	3.84%	3.99%	4.33%	4.41%	3.85%	3.80%	・	3.80%
03	5.15%	5.02%	4.06%	4.00%	4.23%	4.06%	4.43%	4.14%	3.98%	3.86%	・	3.66%
04	8.03%	7.90%	11.84%	11.32%	11.93%	11.72%	12.50%	12.38%	12.49%	12.26%	・	12.22%
05	9.11%	9.05%	10.32%	10.31%	11.17%	11.38%	9.84%	10.01%	9.79%	9.90%	・	10.44%
06	18.98%	19.49%	22.26%	23.04%	22.71%	22.97%	23.01%	23.09%	23.91%	24.22%	・	24.57%
07	8.05%	8.29%	5.37%	5.35%	5.15%	5.21%	5.20%	5.31%	5.29%	5.30%	・	5.79%
08	1.33%	1.29%	1.15%	1.14%	1.11%	1.07%	1.27%	1.21%	1.20%	1.17%	・	1.11%
09	1.61%	1.63%	1.35%	1.39%	1.30%	1.28%	1.23%	1.21%	1.30%	1.28%	・	0.99%
10	3.93%	3.80%	2.98%	2.93%	2.95%	2.94%	3.18%	3.01%	3.25%	3.13%	・	3.01%
11	7.39%	7.35%	8.45%	8.47%	7.85%	7.97%	8.17%	8.14%	7.62%	7.62%	・	6.50%
12	8.97%	8.97%	7.32%	7.51%	7.03%	8.88%	6.23%	6.14%	6.04%	6.09%	・	5.67%
13	3.02%	3.00%	2.67%	2.58%	2.38%	2.36%	1.97%	2.22%	1.77%	1.78%	・	1.57%
14	3.70%	3.70%	2.16%	2.19%	1.98%	1.92%	2.01%	1.98%	1.92%	1.91%	・	1.98%
15	0.68%	0.61%	1.82%	1.52%	1.79%	1.58%	2.21%	1.75%	2.30%	2.02%	・	2.13%
16	3.34%	3.28%	6.14%	6.10%	6.20%	6.24%	6.59%	6.67%	7.14%	7.18%	・	7.54%
17	0.06%	0.17%	0.07%	0.19%	0.08%	0.22%	0.08%	0.28%	0.03%	0.33%	・	0.43%
18	1.72%	1.73%	1.66%	1.55%	1.51%	1.57%	1.46%	1.68%	1.38%	1.49%	・	1.21%

(参考)

MDC01	神経系疾患	MDC10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患
MDC02	眼科系疾患	MDC11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患
MDC03	耳鼻咽喉科系疾患	MDC12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩
MDC04	呼吸器系疾患	MDC13	血液・造血器・免疫臓器の疾患
MDC05	循環器系疾患	MDC14	新生児疾患、先天性奇形
MDC06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	MDC15	小児疾患
MDC07	筋骨格系疾患	MDC16	外傷・熱傷・中毒
MDC08	皮膚・皮下組織の疾患	MDC17	精神疾患
MDC09	乳房の疾患	MDC18	その他

第6 まとめ

全ての病院類型において、平成19年度までと同様に、平均在院日数は減少傾向であったが、その要因は、患者構成の変化によるものではなく、診断群分類毎の平均在院日数の減少によるものであった。

一方、緊急入院及び他院からの紹介の患者数は、横ばいから増加傾向であった。

これらのことから、重症度の高い患者を避けるような患者選別の傾向は見られておらず、診療内容に悪影響は認められないものと考えられる。

ただし、救急車による搬送の率・患者数については、一部の類型の病院では、平成20年度はやや減少しており、今後も注視していくことが必要である。

また、退院時転帰の状況においては、治療及び軽快を合計した割合が横ばいであり、急性期としてある程度病態が安定した時点までの入院医療を反映しているものと考えられる。

以上のことから、DPCにより、質の確保はされつつ医療の効率化が進んでいるものと考えられる。

また、これまで増加傾向であった再入院率については、平成20年度も引き続き増加傾向がみられた。平成20年度改定において、同一疾患での3日以内の再入院（病棟間の転棟に伴う再転棟も含む）については、1入院として扱うように算定ルールを見直したところであり、この影響について、今後も注視していくことが必要である。

平成 21 年度特別調査 再入院（再転棟）に係る調査について

1. 調査の目的

- 医療効率化の一つの指標として在院日数が用いられるが、在院日数の短縮が図られているなかで、提供されている医療サービスが低下していないかどうかを再入院（再転棟）の頻度やその理由を指標として検証する。

2. 調査方法

(1) 調査方法

○ データ抽出条件

7 月から 12 月までの退院患者に係る調査実施期間中に収集されたデータのうち 7 月から 10 月の退院患者データから下記条件でデータを抽出した。

再入院調査データ

- ①4 月 1 日以降入院、退院日が 7 月 1 日から 10 月 31 日の患者
- ②データ識別番号の重複があり、前回入院から 6 週間以内に再入院があった場合を再入院ありと判定した
- ③一般病棟入院ありの患者を集計対象とした
- ④前回入院の「医療資源を最も投入した傷病名」と今回入院の「入院の契機となった傷病名」から決定される診断群分類の上 6 桁が一致した場合は同一疾患、不一致の場合は異なる疾患として、両者の再入院率を集計した

再転棟調査データ

- ①4 月 1 日以降入院、退院日又は転棟日が 7 月 1 日から 10 月 31 日の患者
- ②1 入院内で一般病棟からその他の病棟へ転棟し、さらに一般病棟へ再転棟した患者
- ③一般病棟への入院があり、様式 1 の子様式が少なくとも 1 レコード以上作成されている患者
- ④前回一般病棟入院の「医療資源を最も投入した傷病名」と今回一般病棟入院の「入院の契機となった傷病名」から決定される診断群分類の上 6 桁が一致した場合は同一疾患、不一致の場合は異なる疾患として、両者の再転棟率を集計した

- 再入院（再転棟）ありと判定された患者について「再入院（再転棟）調査票」により再入院（再転棟）の状況を調査。
- 再入院調査は平成 21 年度分について調査を実施し、昨年度までに実施したデータと共に、平成 19 年度から平成 21 年度の 3 年間の変化を把握することを目的とした。（全医療機関で今年度調査対象となった再入院症例は約 348,000 症例）
- 再転棟調査は 7 月から 10 月の退院患者の様式 1 を用いて、一般病棟からその他の病棟へ転棟し、再び一般病棟へ転棟した患者を抽出し、再転棟患者の存在する病院へ調査票を配布し、再転棟の理由を調査した。（全対象医療機関で調査対象となった再転棟症例は約 2,100 症例）

(2) 調査対象病院

- 今年度の再入院調査対象病院は DPC 対象病院 1,282 病院と DPC 準備病院 325 病院の計 1,607 病院。
- 今年度の再転棟調査対象病院は再転棟患者の存在する DPC 対象病院 461 病院と DPC 準備病院 150 病院の計 611 病院。

※用語の定義

- 平成●●年度対象病院：当該年度において、診断群分類点数表により算定している病院
- 平成●●年度参加病院：当該年度において、初めて対象病院となった病院（印刷製本の都合上、資料集上は「新規対象病院」として表示）
- 平成●●年度準備病院：当該年度において、対象病院ではなく、DPC 調査に参加している病院

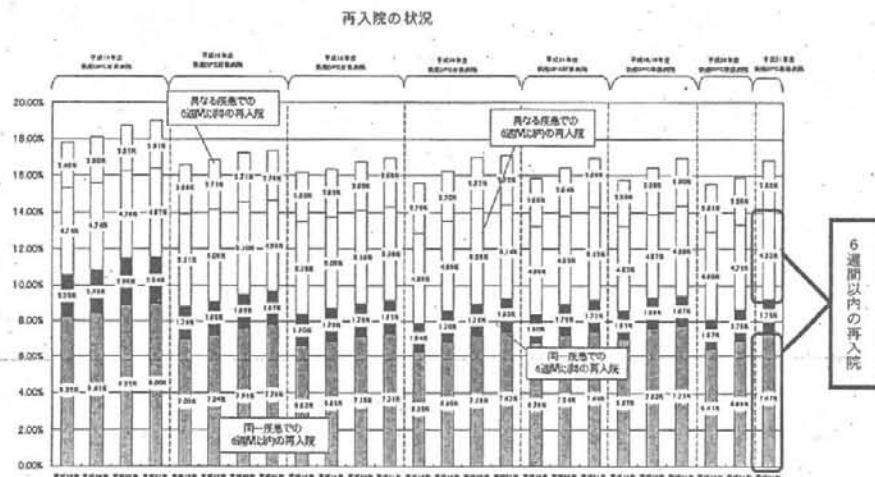
(3) 調査票

- 症例毎に基本情報を記載した調査票(別紙 1・再入院調査のみ)とデータ入力用のエクセルシート(別紙 2)を送付して、調査の負荷軽減を図るとともに提出データ形式の統一を図った。

3. 調査の実施状況

平成 21 年	12 月 14 日	調査票の発送
平成 22 年	1 月 31 日	データ提出期限
平成 22 年	2 月～3 月	エラーチェック・データ集計等

(参考) 下図のとおり、再入院率の変化は、主として 6 週間以内の再入院において起こっていることから、本調査においては、6 週間以内の再入院に限って理由を調査。



4. 調査結果要約

再入院に係る調査

(1) 平成 21 年度調査対象医療機関数及び分析データ数年次推移(図表 1,P3)

平成 21 年度の調査対象病院は 1,607 医療機関であり、全医療機関から回答が得られた。その中で施設類型別の集計対象とした医療機関は、調査対象となっている平成 19 年度から平成 21 年度で 7 月～10 月退院患者の 4 ヶ月間のデータが揃っている医療機関のみとし、全 1,607 病院が今年度の施設類型別分析対象となった。

分析対象退院症例数 3,051,938 症例のうち再入院調査の対象症例数は 348,382 症例(再入院率 11.4%)であった。そのうち回答症例数は 348,327 症例(回答率 99.98%)であった。

(2) 施設類型別集計

①年度別・再入院率(図表 2-①, P4)

DPC による支払いを受けているかどうかに関わらず、経年比較が行える施設類型において再入院率は年々増加傾向にある。再入院率が一番高かったのは平成 15 年度 DPC 参加病院の 12.4%、一番低かったのは平成 20 年度新規 DPC 準備病院の 10.6%であった。

②前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率・割合(図表 2-②, P5-6)

計画的再入院が全体の再入院率の増加原因となっている。平成 20 年度から、平成 21 年度にかけてほとんどの施設類型において、「同一病名再入院の比率」には横ばいの傾向が見られ、「異なる病名の計画的再入院」に増加傾向が見られた。

③計画的再入院における理由の内訳(退院症例に対する再入院症例数比率)(図表 2-③, P7)

前年度と比較し、ほとんどの施設類型において「計画的手術・処置のため」・「化学療法・放射線療法のため」で増加が見られた。

④予期された再入院における理由の内訳(退院症例に対する再入院症例数比率)(図表 2-④, P8)

前年度と比較すると、平成 16 年度 DPC 参加病院、平成 18 年度 DPC 参加病院、平成 20 年度新規 DPC 準備病院では「予期された疾病の悪化、再発のため」の理由が減少したことにより全体の比率が減少した。平成 20 年度 DPC 参加病院、平成 21 年度 DPC 参加病院、平成 18,19 年度新規 DPC 準備病院では、「予期された疾病の悪化、再発のため」と「予期された合併症発症のため」の理由が増加したことにより、前年度から全体の比率が増加した。

⑤ 予期せぬ再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）（図表 2-⑤, P9）

前年度と比較し、全体的に「予期せぬ疾患の悪化、再発のため」「予期せぬ合併症発症のため」が減少傾向にある。

⑥ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑥, P10-11）

計画的再入院のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した再入院を MDC 別に前年度と比較して見ると、主に「MDC06（消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患）」において増加傾向が見られた。

⑦ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑦, P12-13）

計画的再入院の上位 15 疾患を見ると、前年度から増加している主な疾患は、「大腸（上行結腸から S 状結腸）の悪性腫瘍（060035）」、「直腸肛門（直腸・S 状結腸から肛門）の悪性腫瘍（060040）」、「胃の悪性腫瘍（060020）」であり、⑥で増加のあった「MDC06（消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患）」の主な内訳となっていた。

⑧ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法あり」を除いた前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率（図表 2-⑧, P14）

平成 18,19 年度新規 DPC 準備病院以外は全体的に増加傾向を示している。内訳においては、主に「異なる病名の計画的再入院比率」が増えている。それ以外の計画的再入院については、全体的な蛍光は見受けられなかった。

⑨ 前回再入院からの期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑨, P15-16）

いずれの施設類型でも 15 日～42 日以内の再入院に増加傾向が見られた。8 日～14 日以内の再入院については平成 15 年度 DPC 参加病院を除き、4 日～7 日以内の再入院については平成 16 年度及び平成 18 年度 DPC 参加病院を除き、増加傾向となっている。

また、3 日以内の再入院については、平成 15 年度 DPC 参加病院（0.54%）以外は、いずれの施設類型においても 0.70%前後となっている。

⑩ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑩, P17-18）

DPC 対象病院においては 14 日以内の再入院率に明らかな増加傾向又は減少傾向を認めない。15 日～42 日以内の再入院率については、平成 20 年度及び平成 21 年度参加病院を除き、増加傾向が見られた。DPC 準備病院については、期間にかかわらず全体的な増加が見られた。

⑪ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑪, P19-20）

平成 18,19 年度新規 DPC 準備病院では前年度から増加が見られなかったが、その他の施設類型では増加が見られ、DPC 対象病院では、特に 15 日～42 日以内の再入院での増加が大きかった。

⑫ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑫, P21-22）

全体的には、平成 18,19 年度新規 DPC 準備病院以外で増加傾向が見られている。主に増加傾向が見られる MDC としては、「MDC02（眼科系疾患）」、「MDC05（循環器系疾患）」、「MDC06（消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患）」及び「MDC11（腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患）」によるものであった。

⑬ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑬, P23-24）

上位 15 疾患別で見ると、全施設類型に共通した増加傾向又は減少傾向について、明らかなものは認められなかった。

⑭ 同一病名で「化学療法・放射線療法あり」の再入院回数別在院日数（図表 2-⑭, P25）

全ての施設類型において 1 回目に比べ 2 回目入院の在院日数は短くなり、2 回目以降の在院日数はほとんど差がないという傾向が見られた。平成 15 年度及び平成 16 年度参加病院においては、2 回目以降の在院日数が減少しているのに対して、平成 20 年度及び平成 21 年度参加病院においては 2 回目以降の在院日数が増加している。

⑮ 1 患者あたりの再入院回数（退院症例数／実患者数）（図表 2-⑮, P26）

前年度と比較して DPC 対象病院では明らかな増加傾向又は減少傾向は見られず、DPC 準備病院では増加傾向が見られた。

再転棟に係る調査

- (3) 平成 21 年度調査対象医療機関数及び分析データ数 (図表 3, P27)
調査の対象となった 1,607 医療機関のうち、再転棟症例の存在する 611 医療機関に調査票を配布し、全医療機関から回答が得られた。
分析対象退院症例数 3,051,938 症例のうち分析対象再転棟数は 2,159 (再転棟率 0.07%) であった。そのうち回答症例数は 2,151 (回答率 99.6%) であった。
- (4) 施設類型別集計
- ①年度別・再転棟率 (図表 4-①, P28)
前年度と比較し、平成 21 年度 DPC 参加病院では再転棟率が減少した。それ以外の施設類型においては、大きな変動は見られない。
- ②前回一般病棟と今回一般病棟の病名同異別・退院症例に対する再転棟事由比率・割合 (図表 4-②, P29-30)
平成 16 年度及び平成 18 年度参加病院を除き、同一病名による再転棟率は減少している。このうち「予期せぬ再転棟比率」も減少している。
- ③計画的再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-③, P31)
計画的再転棟においては、「計画的手術・処置のため」がその理由の多くを占める傾向にある。平成 20~21 年度 DPC 参加病院、DPC 準備病院では「その他」の理由が大きく減少している。
- ④予期された再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-④, P32)
予期された再転棟においては「予期された疾患の悪化、再発のため」「予期された合併症発症のため」が理由の多くを占める傾向にあった。平成 21 年度 DPC 参加病院では全体的に予期された再転棟率に減少が見られ、平成 20 年度 DPC 参加病院、DPC 準備病院では増加傾向が見られた。
- ⑤予期せぬ再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-⑤, P33)
予期せぬ再転棟においては「他疾患発症のため」「予期せぬ疾患の悪化、再発のため」が理由の多くを占める傾向にあった。

- ⑥MDC 別・退院症例に対する再転棟比率・割合 (図表 4-⑥, P34-35)
どの施設類型でも割合の大きい MDC は「MDC01 (神経系疾患)」、「MDC04 (呼吸器系疾患)」、「MDC06 (消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患)」、「MDC07 (筋骨格系疾患)」、「MDC16 (外傷・熱傷・中毒)」等であった。全施設類型に通じた増加傾向又は減少傾向は認められなかった。
- ⑦前回一般病棟から今回一般病棟への転棟期間別・退院症例に対する再転棟比率 (図表 4-⑦, P36)
どの施設類型も長期の再転棟が多い。また、平成 21 年度 DPC 参加病院と平成 18,19 年度新規 DPC 準備病院では 14 日以内の短期の再転棟で減少が見られた。

(5) 医療機関別集計

①医療機関別再入院率 (図表 5, P37-58)

再入院率は医療機関によりかなりのばらつきが見られた。全ての医療機関の中で最も再入院率が高かった医療機関が 42.6%であった。一方、最も低かった医療機関は 0.7%であった。

再入院率が 20%を超えた医療機関は対象病院で 29 医療機関、準備病院で 11 医療機関、計 40 医療機関であった。

②医療機関別再転棟率 (図表 6, P59-69)

再転棟率においても医療機関によりばらつきが見られた。全ての医療機関の中で最も再転棟率が高かった医療機関が 4.22%であった。一方、最も低かった医療機関は 0.01%であった。

再転棟率が 1%を超えた医療機関は対象病院で 41 医療機関、準備病院で 25 医療機関、計 66 医療機関であった。

「平成 21 年度特別調査 再入院に係る調査」調査票

◇ 医療機関名:	
◇ 患者データ識別番号:	生年月日 (西暦):
◇ 診療科コード (前回退院時):	
診断群分類 (前回退院時):	
最医資病名 (前回退院時):	
入院日:	ICD - 10:
退院日:	退院時転帰:
入院目的:	
◇ 診療科コード (今回退院時):	
診断群分類 (今回退院時):	
最医資病名 (今回退院時):	
入院日:	ICD - 10:
退院日:	退院時転帰:
入院目的:	
◇ 再入院の理由:	
「計画的再入院」か、「予期された再入院」か、「予期せぬ再入院」かをまず判断し、その具体的理由の欄に「○」を記入してください。	
「あり得る」合併症の発症や疾患の再発があつて再入院した場合でも、それが患者に対して十分な説明がなされておらず、予期されていなかった場合には「予期せぬ再入院」としてください。	
項目を選択するに当たっては、参考資料の例を参照してください。	
* 計画的再入院	
() ① 検査入院後手術のため	
() ② 計画的手術・処置のため	
() ③ 化学療法・放射線療法のため	
() ④ 定期検査のため	
() ⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため	
() ⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため	
() ⑦ その他 (_____)	
* 予期された再入院	
() ① 予期された疾病の悪化、再発のため	
() ② 予期された合併症発症のため	
() ③ 患者の QOL 向上のため一時帰宅したため	
() ④ 前回入院において患者の都合により退院したため	
() ⑤ その他 (_____)	
* 予期せぬ再入院	
() ① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	
() ② 予期せぬ合併症発症のため	
() ③ 他疾患発症のため	
() ④ その他 (_____)	

(参考)

④ その他

再入院理由の具体例

	項目	具体例
* 計画的再入院	① 検査入院後手術のため	小児の先天性心室中隔欠損症で前回カテーテル検査のため入院、今回はパッチ閉鎖手術のため入院。
	② 計画的手術・処置のため	前回、骨折で入院して観血的整復術をうけた。今回、抜釘手術のため入院。
	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため入院、今回も化学療法を受けるため入院。
	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため入院。
	⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため	小児で斜視手術のため入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して退院、軽快したので2週間後に手術のため入院。
	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため	前回、極度の貧血のため入院、子宮筋腫の診断のもと貧血に対する治療を行い退院、今回、貧血が改善したので手術（単純子宮全摘術）目的で入院。
	⑦ その他	
* 予期された再入院	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で入院し治療をうけて退院、自宅療養中であったが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり入院。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、退院時誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。退院一週間後誤嚥性肺炎が発症したので入院。
	③ 患者のQOL向上のため一時帰宅したため	前回、肺小細胞癌で入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者のQOLの向上を図るため退院、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり入院。
	④ 前回入院において患者の都合により退院したため	大腸ポリープの内視鏡手術のため入院したが、患者親戚に不幸があり、下血等の症状がなかったため退院。所用も片付いたので、再度入院してポリープ切除をうけた。
	⑤ その他	
* 予期せぬ再入院	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で入院、治療をうけて軽快退院、退院時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。退院1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので入院。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。退院1週間後誤嚥性肺炎のため入院。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術をうけて退院、その5日後急性心筋梗塞を発症して入院。

再転棟理由の具体例

	項目	具体例
* 計画的再転棟	① 検査で DPC 算定病棟へ入院後手術のため	狭心症で前回カテーテル検査のため DPC 算定病棟へ入院、今回は冠動脈形成術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	② 計画的手術・処置のため	前回、骨折で DPC 算定病棟へ入院して観血的整復術を受けた。今回、抜釘手術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため DPC 算定病棟へ入院、今回も化学療法を受けるため DPC 算定病棟へ転棟。
	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため DPC 算定病棟へ転棟。
	⑤ 前回 DPC 算定病棟での入院時、検査・手術を中止して一時転棟したため	白内障手術のため DPC 算定病棟へ入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して転棟、軽快したので2週間後に手術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時転棟したため	前回、極度の貧血のため DPC 算定病棟へ入院、子宮体癌の診断のもと貧血に対する治療を行い転棟、今回、貧血が改善したので手術(子宮悪性腫瘍手術)目的で DPC 算定病棟へ転棟。
	⑦ その他	
* 予期された再転棟	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で DPC 算定病棟へ入院し治療を受けて転棟、療養中であつたが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり DPC 算定病棟へ転棟。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため DPC 算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、転棟時に誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。転棟一週間後誤嚥性肺炎が発症したので DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 患者の QOL 向上のため一時転棟したため	前回、肺小細胞癌で DPC 算定病棟へ入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者の QOL の向上を図るため転棟、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり DPC 算定病棟へ転棟。
	④ 前回 DPC 算定病棟での入院時において患者の都合により転棟したため	前回 DPC 算定病棟での入院時に、患者が手術を希望しなかった為手術を実施せず転棟となったが病状の変化により手術を実施することとなり、再度 DPC 算定病棟へ転棟し手術を実施した。
	⑤ その他	

* 予期せぬ再転棟	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で DPC 算定病棟へ入院、治療を受けて軽快転棟、転棟時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。転棟1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので DPC 算定病棟へ転棟。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため DPC 算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がこりうるとの説明はなかった。転棟1週間後誤嚥性肺炎のため DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術を受けて転棟、その5日後急性心筋梗塞を発症して DPC 算定病棟へ転棟。
	④ その他	

※DPC 算定病棟とは、以下の入院基本料等を届出ている病棟をいう。

- ・一般病棟入院基本料
- ・特定機能病院入院基本料(一般)
- ・専門病院入院基本料
- ・救命救急入院料
- ・特定集中治療室管理料
- ・ハイケアユニット入院医療管理料
- ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- ・新生児特定集中治療室管理料
- ・総合周産期特定集中治療室管理料
- ・広範囲熱傷特定集中治療室管理料
- ・一類感染症患者入院医療管理料
- ・小児入院医療管理料

提出用EXCELファイル調査票

患者情報										再入院情報									
患者ID	氏名	性別	年齢	病棟	病室	入院日	退院日	再入院日	再入院理由	再入院病棟	再入院病室	再入院日	再入院理由	再入院病棟	再入院病室	再入院日	再入院理由	再入院病棟	再入院病室
<p>左側は貴院から提出された7~10月退院患者データを元に入力済みになっていますので、入力の必要はありません。</p> <p>※万が一情報が間違っている場合は、「7月から12月までの退院患者に係わる調査」の該当月データの再提出が必要になります。</p>										<p>黄色の3列のセルのいずれかの選択項から該当するものを選択して下さい。</p> <p>※その他を選択した際は右隣のセルに理由を入力してください。</p>									

ファイル名・シート名の変更、列の追加や表のレイアウト変更は禁止です

提出用 EXCEL ファイル調査票

患者情報										再入院情報									
患者ID	氏名	性別	年齢	病棟	病室	入院日	退院日	再入院日	再入院理由	再入院病棟	再入院病室	再入院日	再入院理由	再入院病棟	再入院病室	再入院日	再入院理由	再入院病棟	再入院病室
<p>左側は貴院から提出された7~10月退院患者データを元に入力済みになっていますので、入力の必要はありません。</p> <p>※万が一情報が間違っている場合は、「7月から12月までの退院患者に係わる調査」の該当月データの再提出が必要になります。</p>										<p>黄色の3列のセルのいずれかの選択項から該当するものを選択して下さい。</p> <p>※その他を選択した際は右隣のセルに理由を入力してください。</p>									

ファイル名・シート名の変更、列の追加や表のレイアウト変更は禁止です

集計結果について

施設類型別集計

再入院に係る調査

- 平成 21 年度調査対象医療機関数及び分析データ数年次推移
- 年度別・再入院率
- 前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率
- 前回入院と今回入院の病名同異別・再入院事由割合
- 計画的再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）
- 予期された再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）
- 予期せぬ再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した症例の MDC 別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法あり」を除いた前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率
- 前回再入院からの期間別・退院症例に対する再入院比率
- 前回再入院からの期間別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」の期間別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の期間別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した症例の MDC 別・再入院割合
- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入

院比率

- 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・再入院割合
- 同一病名で「化学療法・放射線療法あり」の再入院回数別在院日数
- 1 患者あたりの再入院回数（退院症例数／実患者数）

再転棟に係る調査

- 平成 21 年度調査対象医療機関数及び分析データ数
- 年度別・再転棟率
- 前回一般病棟と今回一般病棟の病名同異別・退院症例に対する再転棟事由比率
- 前回一般病棟と今回一般病棟の病名同異別・再転棟事由割合
- 計画的再転棟における理由の内訳（退院症例に対する再転棟数比率）
- 予期された再転棟における理由の内訳（退院症例に対する再転棟数比率）
- 予期せぬ再転棟における理由の内訳（退院症例に対する再転棟数比率）
- MDC 別・退院症例に対する再転棟比率
- MDC 別・再転棟割合
- 前回一般病棟から今回一般病棟への転棟期間別・退院症例に対する再転棟比率

医療機関別集計

- 医療機関別再入院率
- 医療機関別再転棟率

平成 20 年度特別調査 再入院（再転棟）に係る調査について

1. 調査の目的

- 医療効率化の一つの指標として在院日数が用いられるが、在院日数の短縮が図られているなかで、提供されている医療サービスが低下していないかどうかを再入院（再転棟）の頻度やその理由を指標として検証する。

2. 調査方法

(1) 調査方法

○ データ抽出条件

7 月から 12 月までの退院患者に係る調査実施期間中に収集されたデータのうち 7 月から 10 月の退院患者データから下記条件でデータを抽出した。

再入院調査データ

- ① 4 月 1 日以降入院、退院日が 7 月 1 日から 10 月 31 日までの患者を対象とした。
- ② データ識別 ID の重複があり、前回入院から 6 週間以内に再入院があった患者を再入院ありと判定した。
- ③ 一般病棟入院ありの患者を集計対象とした。
- ④ 前回入院の「医療資源を最も投入した傷病名」と今回入院の「入院の契機となった傷病名」から決定される診断群分類の上 6 桁が一致した場合は同一疾患、不一致の場合は異なる疾患として、両者の再入院率を集計した。

再転棟調査データ

- ① 4 月 1 日以降入院、退院日又は転棟日が 7 月 1 日から 10 月 31 日までの患者を対象とした。
- ② 1 入院内で一般病棟からその他の病棟へ転棟し、さらに一般病棟へ再転棟した患者を対象とした。
- ③ 前回一般病棟入院の「医療資源を最も投入した傷病名」と今回一般病棟入院の「入院の契機となった傷病名」から決定される診断群分類の上 6 桁が一致した場合は同一疾患、不一致の場合は異なる疾患として、両者の再転棟率を集計した。

- 再入院（再転棟）ありと判定された患者について「再入院（再転棟）調査票」により再入院（再転棟）の状況を調査した。
- 再入院調査は平成 20 年度分について調査を実施し、昨年実施した 6 年間のデータと共に、平成 14 年度から 20 年度の 6 年間の変化を把握す

ることを目的とした。（全医療機関で今年度調査対象となった再入院症例は約 315,000 症例）

- 再転棟調査は 7 月から 10 月の退院患者の様式 1 を用いて、一般病棟からその他の病棟へ転棟し、再び一般病棟へ転棟した患者を抽出し、再転棟患者の存在する病院へ調査票を配布し、再転棟の理由を調査した。（全対象医療機関で調査対象となった再転棟数は約 2,300 件）

(2) 調査対象病院

- 再入院調査対象病院は DPC 対象病院 718 病院と DPC 準備病院 841 病院の計 1,559 病院。
- 再転棟調査対象病院は再転棟患者の存在する DPC 対象病院 247 病院と DPC 準備病院 343 病院の計 590 病院。

(3) 調査票

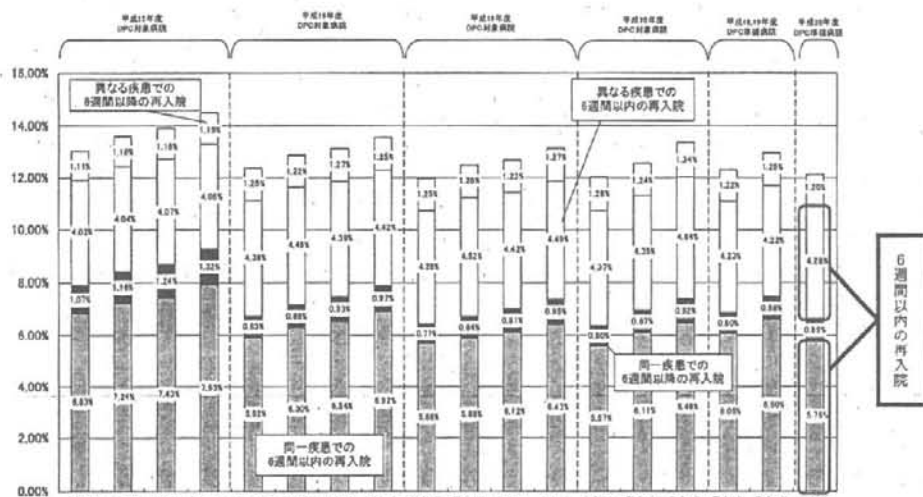
- 症例毎に基本情報を記載した調査票(別紙 1・再入院調査のみ)とデータ入力用のエクセルシート(別紙 2)を送付して、調査の負荷軽減を図るとともに提出データ形式の統一を図った。

3. 調査の実施状況

平成 20 年 12 月 22 日 調査票の発送
 平成 21 年 1 月 31 日 データ提出期限
 平成 21 年 2 月～3 月 エラーチェック・データ集計等

(参考) 下図のとおり、再入院率の変化は、主として 6 週間以内の再入院において起こっていることから、本調査においては、6 週間以内の再入院に就いて理由を調査。

再入院の状況



4. 調査結果要約

再入院に係る調査

(1) 平成 20 年度調査対象医療機関数及び分析データ数年次推移 (図表 1)

平成 20 年度の調査対象病院は 1,559 医療機関であり、全医療機関から回答が得られた。その中で施設類型別の集計対象とした医療機関は、調査対象となっている全ての年度で 7 月～10 月退院患者の 4 ヶ月間のデータが揃っている医療機関のみとし、1,533 病院を今年度の施設類型別分析対象とした。

分析対象退院症例数 2,864,827 症例のうち再入院調査の対象症例数は 314,954 症例 (再入院率 11.0%) であった。そのうち回答症例数は 314,883 症例 (回答率 99.98%) であった。

(2) 施設類型別集計

①年度別・再入院率 (図表 2-①)

DPC による支払いを受けているかどうかに関わらず、経年比較が行える施設類型において再入院率は年々増加傾向にある。施設類型全体では再入院率が 11.0%と前年度の 10.6%と比較して約 0.4%増となった。

②前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率・割合 (図表 2-②)

前年度と比較すると、全ての施設類型において前回入院と同一病名の計画的再入院の比率が増加し、これが全体の再入院率の増加原因となっている。

③計画的再入院における理由の内訳 (退院症例に対する再入院症例数比率) (図表 2-③)

前年度と比較し、全ての施設類型において「計画的手術・処置のため」の理由に増加傾向が見られた。「化学療法・放射線療法のため」は平成 20 年度 DPC 対象病院以外の全ての施設類型で増加が見られた。

④予期された再入院における理由の内訳 (退院症例に対する再入院症例数比率) (図表 2-④)

平成 16 年度 DPC 対象病院では「予期された疾病の悪化、再発のため」の理由が減少したことにより全体の比率が減少した。その他の全ての施設類型では、「予期された疾病の悪化、再発のため」と「予期された合併症発症のため」の理由が増加したことにより、前年度から全体の比率が増加した。

⑤予期せぬ再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）（図表 2-⑤）

前年度と比較し、平成 20 年度 DPC 対象病院は「他疾患発症のため」の増加により、予期せぬ再入院比率が若干増加した。それ以外の平成 15～18 年度 DPC 対象病院では全体的に予期せぬ再入院比率が減少した。平成 18,19 年度 DPC 準備病院の比率にはほとんど変化が見られなかった。

⑥計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑥）

計画的再入院が増加した平成 15～18 年度 DPC 対象病院、平成 18,19 年度 DPC 準備病院の「化学療法・放射線療法のため」に該当した再入院を MDC 別に前年度と比較して見ると、これらのいずれの施設類型においても「MDC06（消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患）」が増加していた。平成 16 年度 DPC 対象病院では「MDC12（女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩）」に増加が見られた。他の MDC では前年度から大きな変化は見られなかった。

⑦計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑦）

計画的再入院の上位 15 疾患を見ると、どの施設類型でも前年度から増加している主な疾患は、「大腸の悪性腫瘍（060035）」、「直腸肛門の悪性腫瘍（060040）」、「胃の悪性腫瘍（060020）」であった。

⑧計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法あり」を除いた前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率（図表 2-⑧）

平成 16 年度 DPC 対象病院以外は増加傾向を示しており、主に計画的再入院比率が増えている。減少傾向のある平成 16 年度 DPC 対象病院では前回の入院と異なる病名の予期せぬ再入院が減少している。

⑨前回再入院からの期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑨）

図表 2-⑨-1 で前年度と比較して見ると、平成 15～18 年度 DPC 対象病院の 3 日以内の再入院比率は減少している。4 日～7 日以内の再入院比率はわずかに増加している。再入院割合（図表 2-⑨-2）を通年で見ると 0 日～7 日以内の短期の再入院割合は他の期間と比べて年々減少傾向にあるのがわかる。再入院比率の増加は 15 日～28 日以内の再入院で最も大きく、次いで 8 日～14 日以内の再入院で大きい。

⑩計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑩）

3 日以内の再入院比率は、平成 15～18 年度 DPC 対象病院において大きく減少していた。また、4 日～7 日以内の再入院比率はやや増加傾向であった。

全体的な傾向としては 0 日～14 日以内の再入院割合は減少しており、15 日以上再入院に増加傾向が見られた。

⑪計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑪）

3 日以内の再入院比率は、平成 15～18 年度 DPC 対象病院において、減少又は横ばいだった。また、その他の期間の再入院比率は、増加又は横ばいであった。

⑫計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑫）

全ての施設類型において、「MDC06（消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患）」の再入院比率が増加していた。割合で見ると、どの施設類型も前年度からの MDC 別割合の変化は、ほとんど見られなかった。

⑬計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑬）

上位 15 疾患別で見ると、前年度と比較して増加傾向のある施設類型では、主に「狭心症、慢性虚血性心疾患」、「白内障、水晶体の疾患」等に増加が見られるが、疾患別割合で年度ごとに見ると、特に大きな変化は見られなかった。

⑭同一病名で「化学療法・放射線療法あり」の再入院回数別在院日数（図表 2-⑭）

全ての施設類型において 1 回目に比べ 2 回目入院の在院日数は短くなり、2 回目以降の在院日数はほとんど差がないという傾向が見られた。また、全ての施設類型において、1 回目入院の在院日数が減少傾向であった。

⑮1 患者あたりの再入院回数（退院症例数/実患者数）（図表 2-⑮）

前年度と比較して平成 15～16 年度 DPC 対象病院、平成 18,19 年度 DPC 準備病院において増加傾向が見られた。

再転棟に係る調査

- (3) 平成 20 年度調査対象医療機関数及び分析データ数 (図表 3)
調査の対象となった 1,559 医療機関のうち、再転棟症例の存在する 590 医療機関に調査票を配布し、全医療機関から回答が得られた。
分析対象退院症例数 2,864,827 症例のうち分析対象再転棟数は 2,372 (再転棟率 0.08%) であった。そのうち回答数は 2,361 (回答率 99.5%) であった。
- (4) 施設類型別集計
- ①年度別・再転棟率 (図表 4-①)
前年度の再転棟率 (参考値) と比較し、どの施設類型も減少傾向が見られた。DPC 準備病院の再転棟率が高く、特に平成 20 年度 DPC 準備病院が高い数値を示した。
- ②前回一般病棟と今回一般病棟の病名同異別・退院症例に対する再転棟事由比率・割合 (図表 4-②)
件数が一定数以上あり、ばらつきの少ない平成 20 年度 DPC 対象病院、平成 18,19 年度 DPC 準備病院、平成 20 年度準備病院の割合で見ると病名が同一の再転棟のほうがやや多く、また、予期せぬ再転棟の割合が大きかった。
- ③計画的再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-③)
計画的再転棟で比率の大きい理由は「計画的手術・処置のため」であった。
- ④予期された再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-④)
予期された再転棟で比率の大きい理由は「予期された疾患の悪化、再発のため」であった。
- ⑤予期せぬ再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-⑤)
予期せぬ再転棟で最も比率の大きい理由は「他疾患発症のため」であった。
- ⑥MDC 別・退院症例に対する再転棟比率・割合 (図表 4-⑥)
どの施設類型でも似通った傾向が見られ、割合の大きい MDC は「MDC01 (神経系疾患)」、「MDC04 (呼吸器系疾患)」、「MDC16 (外傷・熱傷・中毒)」等であった。
- ⑦前回一般病棟から今回一般病棟への転棟期間別・退院症例に対する再転棟比率 (図表 4-⑦)
全ての施設類型で、15 日以上 of 長期の再転棟の割合が大きかった。

- (5) 医療機関別集計 (図表 5 年度別・再入院率)
再入院率は医療機関によりかなりのばらつきが見られた。平成 20 年度において、全ての医療機関の中で最も再入院率が高かった医療機関が 43.4% であった。一方、最も低かった医療機関は 0% であった。
- (6) 医療機関別集計 (図表 6 再転棟率)
再転棟率が 1.0% 以上の病院は、76 病院のみであった。その中で最も再転棟率が高かった医療機関では 11.7% であった。
- (7) 結論
平成 20 年度においても、再入院率が増加する傾向は続いていた。
主な再入院率増加の原因は計画的再入院の増加にあり、その中でも特に「化学療法・放射線療法のため」の理由による再入院の増加が大半を占めていた。
また、3 日以内の再入院比率は減少し、4 日～7 日以内再入院比率はわずかに増加している。平成 20 年度から DPC の診療報酬において、同一疾患で 3 日以内に再入院した場合は一連の入院として扱われることとなった。3 日以内及び 4 日～7 日以内の再入院については、今後も注視していくことが必要である。
今回、全医療機関 (1,559 病院) に対して新たに再転棟調査として再入院と同様に理由を調査したが、再転棟があったのは 590 病院であり、そのうち再転棟率が 1.0% 以上の病院は 76 病院のみと少数であった。

◇ 医療機関名:	
◇ 患者データ識別番号:	生年月日(西暦):
◇ 診療科コード(前回退院時):	
診断群分類(前回退院時):	
最医資病名(前回退院時):	
入院日:	ICD-10:
退院日:	退院時転帰:
入院目的:	
◇ 診療科コード(今回退院時):	
診断群分類(今回退院時):	
最医資病名(今回退院時):	
入院日:	ICD-10:
退院日:	退院時転帰:
入院目的:	
◇ 再入院の理由:	
「計画的再入院」か、「予期された再入院」か、「予期せぬ再入院」かをまず判断し、その具体的理由の欄に「○」を記入してください。	
「あり得る」合併症の発症や疾患の再発があつて再入院した場合でも、それが患者に対して十分な説明がなされておらず、予期されていなかった場合には「予期せぬ再入院」としてください。	
項目を選択するに当たっては、参考資料の例を参照してください。	
*計画的再入院	
() ① 検査入院後手術のため	
() ② 計画的手術・処置のため	
() ③ 化学療法・放射線療法のため	
() ④ 定期検査のため	
() ⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため	
() ⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため	
() ⑦ その他 ()	
*予期された再入院	
() ① 予期された疾患の悪化、再発のため	
() ② 予期された合併症発症のため	
() ③ 患者のQOL向上のため一時帰宅したため	
() ④ 前回入院において患者の都合により退院したため	
() ⑤ その他 ()	
*予期せぬ再入院	
() ① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	
() ② 予期せぬ合併症発症のため	
() ③ 他疾患発症のため	
() ④ その他 ()	

再入院理由の具体例

	項目	具体例
* 計画的再入院	① 検査入院後手術のため	小児の先天性心室中隔欠損症で前回カテーテル検査のため入院、今回はパッチ閉鎖手術のため入院。
	② 計画的手術・処置のため	前回、骨折で入院して観血的整復術を受けた。今回、抜釘手術のため入院。
	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため入院、今回も化学療法を受けるため入院。
	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため入院。
	⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため	小児で斜視手術のため入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があつたので手術を中止して退院、軽快したので2週間後に手術のため入院。
	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため	前回、極度の貧血のため入院、子宮筋腫の診断のもと貧血に対する治療を行い退院、今回、貧血が改善したので手術(単純子宮全摘術)目的で入院。
	⑦ その他	
* 予期された再入院	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で入院し治療を受けて退院、自宅療養中であったが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり入院。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、退院時誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。退院一週間後誤嚥性肺炎が発症したので入院。
	③ 患者のQOL向上のため一時帰宅したため	前回、肺小細胞癌で入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者のQOLの向上を図るため退院、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり入院。
	④ 前回入院において患者の都合により退院したため	大腸ポリープの内視鏡手術のため入院したが、患者親戚に不幸があり、下血等の症状がなかったので退院。所用も片付いたので、再度入院してポリープ切除を受けた。
	⑤ その他	
* 予期せぬ再入院	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で入院、治療を受けて軽快退院、退院時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。退院1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので入院。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。退院1週間後誤嚥性肺炎のため入院。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術を受けて退院、その5日後急性心筋梗塞を発症して入院。
	④ その他	

再転棟理由の具体例

	項目	具体例
* 計画的再転棟	① 検査で DPC 算定病棟へ入院後手術のため	狭心症で前回カテーテル検査のため DPC 算定病棟へ入院、今回は冠動脈形成術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	② 計画的手術・処置のため	前回、骨折で DPC 算定病棟へ入院して観血的整復術を受けた。今回、抜釘手術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため DPC 算定病棟へ入院、今回も化学療法を受けるため DPC 算定病棟へ転棟。
	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため DPC 算定病棟へ転棟。
	⑤ 前回 DPC 算定病棟での入院時、検査・手術を中止して一時転棟したため	白内障手術のため DPC 算定病棟へ入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して転棟、軽快したので2週間後に手術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時転棟したため	前回、極度の貧血のため DPC 算定病棟へ入院、子宮体癌の診断のもと貧血に対する治療を行い転棟、今回、貧血が改善したので手術(子宮悪性腫瘍手術)目的で DPC 算定病棟へ転棟。
	⑦ その他	
* 予期された再転棟	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で DPC 算定病棟へ入院し治療を受けて転棟、療養中であつたが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり DPC 算定病棟へ転棟。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため DPC 算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、転棟時に誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。転棟一週間後誤嚥性肺炎が発症したので DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 患者の QOL 向上のため一時転棟したため	前回、肺小細胞癌で DPC 算定病棟へ入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者の QOL の向上を図るため転棟、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり DPC 算定病棟へ転棟。
	④ 前回 DPC 算定病棟での入院時において患者の都合により転棟したため	前回 DPC 算定病棟での入院時に、患者が手術を希望しなかった為手術を実施せず転棟となったが病状の変化により手術を実施することとなり、再度 DPC 算定病棟へ転棟し手術を実施した。
	⑤ その他	

* 予期せぬ再転棟	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で DPC 算定病棟へ入院、治療を受けて軽快転棟、転棟時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。転棟1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので DPC 算定病棟へ転棟。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため DPC 算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。転棟1週間後誤嚥性肺炎のため DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術を受けて転棟、その5日後急性心筋梗塞を発症して DPC 算定病棟へ転棟。
	④ その他	

※DPC 算定病棟とは、以下の入院基本料等を届出ている病棟をいう。

- ・一般病棟入院基本料
- ・特定機能病院入院基本料(一般)
- ・専門病院入院基本料
- ・救命救急入院料
- ・特定集中治療室管理料
- ・ハイケアユニット入院医療管理料
- ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- ・新生児特定集中治療室管理料
- ・総合周産期特定集中治療室管理料
- ・広範囲熱傷特定集中治療室管理料
- ・一類感染症患者入院医療管理料
- ・小児入院医療管理料

提出用EXCELファイル調査票

再入院患者の調査票										再入院患者の調査票										再入院患者の調査票									
氏名	性別	年齢	病名	再入院理由	再入院時期	再入院回数	再入院期間	再入院場所	再入院状況	氏名	性別	年齢	病名	再入院理由	再入院時期	再入院回数	再入院期間	再入院場所	再入院状況	氏名	性別	年齢	病名	再入院理由	再入院時期	再入院回数	再入院期間	再入院場所	再入院状況

左側は貴院から提出された 7~10 月退院患者データを元に入力済みになっていますので、入力する必要はありません。

※方が一情報が間違っている場合は、「7 月から 12 月までの退院患者に係わる調査」の該当月データの再提出が必要になります。

黄色の 3 列のセルのいずれかの選択肢から該当するものを選択して下さい。

※その他を選択した際は右隣のセルに理由を入力してください。



ファイル名・シート名の変更、列の追加や表のレイアウト変更は禁止です。

提出用 EXCEL ファイル調査票

再入院患者の調査票										再入院患者の調査票										再入院患者の調査票									
氏名	性別	年齢	病名	再入院理由	再入院時期	再入院回数	再入院期間	再入院場所	再入院状況	氏名	性別	年齢	病名	再入院理由	再入院時期	再入院回数	再入院期間	再入院場所	再入院状況	氏名	性別	年齢	病名	再入院理由	再入院時期	再入院回数	再入院期間	再入院場所	再入院状況

左側は貴院から提出された 7~10 月退院患者データを元に入力済みになっていますので、入力する必要はありません。

※方が一情報が間違っている場合は、「7 月から 12 月までの退院患者に係わる調査」の該当月データの再提出が必要になります。

黄色の 3 列のセルのいずれかの選択肢から該当するものを選択して下さい。

※その他を選択した際は右隣のセルに理由を入力してください。



ファイル名・シート名の変更、列の追加や表のレイアウト変更は禁止です。

2